

「がむしゃらに生きる、すべての人へ」
ロードバイクに青春を捧げた若者たちの実写映画、ここに誕生——



神さまの轍

Checkpoint of the life

青春 × 京都 × 自転車

荒井敦史 岡山天音
望月歩 吉沢太陽
川村亮介 久保陽香 アベラヒデノブ 小賀加恵 松林慎司 月亭太遼 泉原豊
阿部進之介 津田寛治 六角精児

企画・脚本・監督 作道雄 音楽 宮内優里 / 中村佳穂 主題歌 フレデリック「たりないeye」(A-Sketch)
プロデューサー 大西辰彦 プロデューサー 後藤崇文 / 花木秀章 / 作道雄 アソシエイトプロデューサー 三輪由美子 キャスティングプロデューサー 星久美子 撮影 橋本谷典生 照明 竹村潤 録音 倉貫雅夫 編集 宮内美和子
制作プロダクション クリエイティブスタジオゲツコ 配給 エレファントハウス 後援 京都府 / 井手町 / 京都産業大学 / 京都府自転車競技連盟 / 日本自転車普及協会
特別協賛 日本医療食品協会
協賛 村上憲事務所 / 京都山城 白坂テックパークFSJホールディングス
岡田鉄筋工業 / みどり農園 / まるやま食品 / 小川電気商会 / 田中組 / クリーニングのツカモト / 南都銀行 / 中和建設 / 村田工務店 / 若城文具店 / 井手町商工会



©2018映画「神さまの轍」製作委員会

映画 神さまの轍 Checkpoint of the life

舞台のまち 京都府綴喜郡 井手町へようこそ!

2月24日(土)京都・神戸 先行公開、3月3日(土)大阪、3月17日(土)東京都内以降、全国順次ロードショー!

後援: 京都府 / 井手町 / 京都産業大学 / 京都府自転車競技連盟 / 日本自転車普及協会

ロードバイクに青春を捧げた若者たちの実写映画、ここに誕生——

STORY

京都府井手町にある中学校に通う勇利と洋介は、ふとしたきっかけでロードバイクに熱中していく。どこに向かうか見えなくても、無心にペダルを漕ぎ続けることだけが、勇利と洋介にとっての未来であった。数年後、二人は再会する。勇利はプロのロードレーサーとして歩むことを決め、社会人となった洋介はロードバイクに乗ることさえやめてしまっていた。そこから、二人の人生は大きく変わっていくことになる。やがて、掴んだ夢に挫折してしまう勇利と、自分の夢を見つけることが出来なかった洋介の人生とが、思い出の地、井手町を舞台としたロードレース大会《ツールドKYOTO2019》で交錯する。白熱するロードレースの中、二人の若者が選ぶそれぞれの未来とは——。



地域密着で、製作された映画——～プロダクション・ノートから～

クランクイン2ヶ月前、地元の井手小学校と多賀小学校で出演者オーディションが開催されました。井手町民を中心に、約200名が参加。主人公勇利の父親役や、不良少年の母親役がその中から選ばれています。いずれも演技経験のほとんどない方々。事前に監督による演技ワークショップを行い、本番に臨みました。撮影中は、何度もNGが出てテイクを重ねることもありましたが、OKテイクが出る他のキャストやスタッフから拍手がわき起こりました。また、キャスト・スタッフへの炊き出しも、地元町民のボランティアによって行われました。スタッフがロケ弁当ばかりで飽きている頃を見計らって、牛丼やおでんが炊き出しされました。11月の寒さ厳しい撮影の最中、文字通り、暖かいおもてなしをスタッフ、キャスト全員で美味しくいただき、地元町民の暖かい応援を肌で感じながら撮影を乗り切ったのです。



井手町ではサイクリストが訪れやすい町づくりの工夫を始めています!



●大正池グリーンパーク 2018年2月現在、より良い環境へ整備中。

井手町へのアクセス

電車

- JR奈良線 玉水駅、山城多賀駅下車
- JR京都から玉水駅まで約30分 (みやこ路快速利用)
- JR奈良から玉水駅まで約15分 (みやこ路快速利用)

お車で

- 京都から約50分
- 奈良から約20分
- 大阪から約90分

映画 神さまの轍 Checkpoint of the life

ロケ地ガイド&サイクルマップ



1 高神社

現在の建物ができたのは、慶長9(1604)年。本殿は、京都府の文化財に指定されています。「自転車神社」の愛称で親しまれ、裏道を通れば自転車で参拝が出来ます。映画では主人公の勇利と洋介が中学時代、盗まれた自転車を取り戻しに行くシーンで登場します。



2 自然休養村管理センター

町民の交流の場として利用されています。映画の冒頭など、数回、印象的に登場する鉄塔が建物の裏手にそびえ立っています。



3 井手町まちづくりセンター-椿坂

懐かしい棚田の風景の中にある施設の近くには、ここで出会い、一度別れた2人が再び巡り合う「井手の下帯」の伝説が残る椿坂があります。この伝説にちなみ「井手町まちづくりセンター-椿坂」の名前に「出会いの場」との思いが込められました。映画の中では、クライマックスシーン「ツール・ド・KYOTO2019」のスタート地点となりました。100人のレーサー、200人以上の観客たちがレースの幕開けの瞬間を見守る熱気は圧巻です。



4 井手町立泉ヶ丘中学校

町内唯一の中学校で、「誇り高き泉ヶ丘中学校を築こう」のスローガンのもと、創立以来半世紀の歴史と伝統のある学校。現在はオーストラリアにある姉妹校との国際交流が盛んです。映画の主人公、勇利と洋介が通っている中学校。

① インフォメーション

井手町役場

〒井手町大字井手小字南玉水 67
☎0774-82-2001(代表)

玉水駅前休憩所「さくら」

〒井手町井手柏原 4-10
☎0774-82-3174
🕒9:00~16:30
🗓毎週日曜日・祝日



5 万灯呂山展望台

標高約300メートルの山頂から、北は京都市南部、南は関西文化学術研究都市を一望でき、京都タワーや生駒丘陵まで広範な眺望が楽しめる絶好の展望台です。映画の中では、主人公の洋介が大会に向けた練習のため、ロードバイクで万灯呂山展望台を登り、達成感にあふれた表情で眺望を臨むシーンが印象的です。



6 大正池

アウトドア公園として整備されており、「大正池グリーンパーク」ではバーベキューやキャンプ、自然体験が楽しめるなど、人々の憩いの場となっています。映画のクライマックスシーン「ツール・ド・KYOTO2019」のレースシーンで撮影されました。井手町から和束町へと抜けるまさにその途中にありますので、京都府景観資産にも認定されている風景を楽しみにぜひお立ち寄りください。

井手町をロードバイクで走ろう!

映画「神さまの轍」の舞台となった井手町は、映画の中でも登場するように、実はロードバイクで走るのうってつけのコースがたくさん隠れています！今回は、その中から3つのコースをご紹介します。一人でふらっと、あるいはたくさんの仲間と、実際に走ってみたいいかがでしょうか？

初級編 高神社～井手町役場～椿坂

「自転車神社」こと高神社で参拝したら、町内を南へ。JR山城多賀駅から、JR沿線を通れば道は平坦で、初心者でも安心してサイクルが出来ます。JR玉水駅、そして井手町役場を通過すれば、日本六玉川のひとつ、井手町の玉川がお出迎え。春には桜、5月には山吹、初夏には蛍が乱舞します。玉川から椿坂への道は少し坂になっているので、ひと頑張り。ゴールの椿坂で、懐かしい棚田の風景を楽しみながら、疲れを癒してください。

中級編 椿坂～大正池～和束町

初級編をクリアしたら次は中級編。ここで難易度が急に上がります。映画の中に出てくる「ツール・ド・KYOTO2019」はまさにこのコース。椿坂から大正池にはひたすら登りの坂道が続きます。途中休憩スポットもなく、電波も届かない場所があるので、初心者の方は必ず経験者の方と一緒に進みましょう。大正池グリーンパークに着けば、そこで休憩ポイント、和束町へと抜けるには、さらに坂道を登ります。最後の心臓破りの坂を超えるとゴールです！和束町への坂道は急なところが多いので、スピードの出しすぎに注意です！

上級編 高神社～万灯呂山展望台

参拝後はさあ、自分との闘いのはじまり、気を引き締めて。登り切ったから見る、標高約300メートルからの広範な眺望は最高です。帰りは登ってきた道をひたすら下るだけ。スピードの出しすぎにだけ注意して、気持ちよく帰って来ましょう！